

(2) 温州みかん

時期	対象病害虫 指定有害動植物	防除法	注意事項
			○ 指定有害動植物に指定されている対象病害虫については、千葉県総合防除計画も参照の上、防除を行う。 (https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokubo/sougouboujyoiikeikaku.html)
12月～ 3月	カイガラムシ類 ミカンハダニ	・マシン油乳剤(97%)	○ マシン油乳剤(97%)にはスピンドロン乳剤、トモノールS、ハーベストオイル、スプレーオイル、アタックオイルなどがある。 ○ 樹勢の弱い樹では使用を避ける。 ○ 寒害を受けやすい園地や着花量の少ない園地では4～5月に防除する。
2月～ 3月	黒点病	・枯枝の剪除	○ 枯枝は伝染源となるため、剪除処分する。
発芽期 (4月上旬～中旬)	そうか病	・マネージD F 又はデランフロアブル	○ 新梢の長さ1cmくらいが防除適期である。 ○ クワゴマダラヒトリの発生が多い場合は、フェニックスフロアブル又はオリオン水和剤40を使用するが、大きくなった幼虫には効果が十分でないので、できるだけ捕殺に努める。 ○ デランフロアブルはかぶれが問題となる場合があるので注意する。
開花期 (5月中旬)	コアオハナムグリ アブラムシ類 チャノキイロアザミウマ	・スミチオン乳剤	○ 30%くらい開花してから散布する。 ○ ミカンハダニの発生に注意し、発生の見られる園では左記の剤に代えてロディー乳剤を使用する。 ○ 5月中～下旬の落弁期にチャノキイロアザミウマが多く見られる場合には、スピノエースフロアブルを使用する。
落花直後 (5月下旬)	そうか病黒点病	・ストロビードライフロアブル 又はデランフロアブル	○ 開花期から落弁期にかけて曇雨天が続くと灰色かび病が発生しやすい。発生が多い場合は、ピクシオD Fを使用する。ストロビードライフロアブルは灰色かび病にも効果がある。 ○ かいよう病の発生する園では、左記の剤に代えてICボルドー66D(クレフノンを加用)を使用する。 ○ アブラムシ類の発生が多い場合はオリオン水和剤40を使用する。 ○ デランフロアブルはかぶれが問題となる場合があるので注意する。
6月中旬	黒点病 そうか病	・ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤	○ 7月以降にマシン油乳剤を使用すると、果実の糖度が下がる可能性があるため、遅れないようにする。 ○ ゴマダラカミキリ成虫の発生は6～7月に多いので捕殺する。また、6月下旬～7月下旬にガットサイドSを樹幹の地際部から約30～40cmの高さまで(薬剤が葉にかからないよう注意)、又はダントツ水溶剤を使用する。ガットサイドSは収穫前使用日数が長いため、早生種での使用に注意する。
	ミカンハダニ カイガラムシ類	・マシン油乳剤(97%)	

時期	対象病虫害 指定有害動植物	防除法	注意事項
	アブラムシ類 チャノキイロアザ ミウマ ミカンキイロアザ ミウマ	・モスピラン顆粒水溶剤	○ 微生物農薬「バイオリサ・カミキリ」は6月上旬～中旬に主幹部や主枝の分岐部などの地表から 20～50cm の部分に1 樹当たり 1 本巻き付けるか架ける。 ○ カタツムリ類やナメクジ類による果実被害が多い場合は、摂食阻害効果のある I C ボルドー 6 6 D (クレフノンを加用) を使用する。但し、殺貝効果はない。なお、ハダニ、カイガラムシ類の防除で使用するマシン油乳剤と近接しないように注意すること。銅線や銅板を樹幹に巻くと、カタツムリ類やナメクジ類の登上进行を阻止できる。
7 月上旬	黒点病	・ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤	○ 黒点病は枯枝から果実などへ伝染発病する (特に摘果期にかけて) ので、枯枝を剪除処分する。 ○ チャノキイロアザミウマの密度が高い場合、スピノエースフロアブルを使用する。
第二次生理落果終期 (7 月中旬～下旬)	ミカンハダニ ミカンサビダニ	・ダニエモンフロアブル 又はサンマイト水和剤	○ ミカンハダニの重要な防除時期は梅雨明け期であるが、気象条件等によって時期が前後するので注意する。 ○ ミカンサビダニはこの時期から 9 月まで加害する。被害果が 1～2 個見られたら、直ちに防除する。 ○ ツノロウムシ幼虫の発生の多い園では、モスピラン顆粒水溶剤を使用する。 ○ ミカンハモグリガは夏葉が展開し始める 7 月下旬～8 月上旬、急に増加する。徒長枝は冬期に剪除してしまうので、通常の発生では防除の必要はないが、激発した場合や高接ぎした場合及び幼木では、新葉展開初期から 2 回、ダントツ水溶剤又はアフアーム乳剤により防除を行う。
8 月中旬～下旬	黒点病	・ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤	○ 8 月に降雨がない場合は、黒点病の基幹防除を 8 月下旬～9 月上旬に遅らせる。収穫前使用日数に注意する。 ○ みかん以外のかんきつ類に隣接している場合は、左記の剤に代えてフロンサイド S C を使用する。 ○ ヤノネカイガラムシの防除をする場合は、8 月中旬にモスピラン顆粒水溶剤又はオリオン水和剤 4 0 を使用する。 ○ かいよう病は風雨によりまん延するため、台風等強風雨前に銅水和剤 (クレフノンを加用) を使用する。
9 月中 (多発した場合のみ)	黒点病	・ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤	○ 多発園のみ薬剤防除を行う。収穫前使用日数に注意する。

時期	対象病虫害 指定有害動植物	防除法	注意事項
9月上旬 ～10月中旬	ミカンハダニ	・カネマイトフロアブル 又はダニサラバフロアブル	○ ミカンサビダニが多発した園では、カネマイトフロアブルを使用する。 ○ チャノキイロアザミウマの防除の薬剤はスピノエースフロアブルを使用する。 ○ カメムシ類の発生が多い場合は、テルスター水和剤かスタークル/アルバリン顆粒水溶剤を使用する。 ○ 褐色腐敗病の発生が心配される場合は、ストロベリードライフロアブルを使用する。あるいは、レーバースフロアブル又はランマンフロアブルを使用する。 ○ クワゴマダラヒトリは、9月頃に果樹園周辺の桑、アカメガシワ等に産卵し、孵化した若齢幼虫は10月頃に巣網を張って集団をつくるので、捕殺に努める。
成熟期～ 収穫前 (10月中旬 ～11月上旬)	青かび病 緑かび病	・トップジンMゾル	○ ミカンサビダニが多発した園では、イオウフロアブルを使用する。

農薬登録情報（農薬名順）

- ・ [殺菌剤](#)
- ・ [殺虫剤](#)
- ・ [展着剤及びフェロモン剤](#)

農薬登録情報（RACコード順）

- ・ [殺菌剤](#)
- ・ [殺虫剤](#)
- ・ [展着剤及びフェロモン剤](#)